

認定特定非営利活動法人 **日本雲南^{れんぎ}聯誼協会**

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階

Tel: 03-5206-5260 Fax: 03-5206-5261

Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室

Tel: +86-871-63311468 Fax: +86-871-63320658

f http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa

ブログ 雲南の郵便屋さん

検索

編集・発行人 初鹿野 恵蘭

印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社 / デザイン Hope Company

Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第67号

会報

発行日 2019年(平成31年)1月15日

25の小さな夢基金



陶紅新校長

昆明市女子中学では、2017年度の終了とともに、約8年の永きにわたり協会にご理解ご協力をいただいた史雲波校長が他校へ転出され、事務部門のトップとして協会のより理解者であった尹書記が定年退職されました。

これを受けて、昨年11月、初鹿野恵蘭理事長らが2018年度新学期から校長に就任された陶紅先生を表敬訪問。新1年生への「25の小さな夢基金」の説明と3月8日開催予定の上海日本人学校高等部との交流活動「日雲高校生国際交流プログラム」について学校側との打ち合わせと確認のために同校を訪問しました。

4ヶ月ぶりに訪れた同校はちょうどお昼休みの時間帯。校庭は学生たちの明るい声で賑わっていました。そんな中の5人グループにカメラを向けると、全員が2年生でそうで、もうすっかり春蕾の学校生活にも慣れ、屈託のない笑顔が輝いていました。一方、3年生の教室を訪ねてみると、参考書に囲まれた机にうつ伏せて、東の間の午睡を貪る生徒ばかり。期せずして60年代に聞き覚えた高石ともやの「受験生ブルース」が脳裏に蘇ってきま

未来を目指して! 「夢基金」 新入生を迎える! 新校長先生も新たに赴任



▲ 2018年9月入学の新入生93名が勢揃い「25の夢基金」についてオリエンテーションを行いました。

した。「頑張れ3年生!」と心の中で励ました後、新1年生の皆さんに教学楼8階の講堂に集まってもらい、初鹿野恵蘭理事長から協会の紹介と「25の小さな夢基金」の説明を行いました。厳しい受験生の姿を見た後では、初々しさが可愛い新1年生たちでした。

陶紅新校長との面談では、協会の「25の小さな夢基金」については史雲波前校長からしっかりと引き継がれているようで、上海日本人学校との交流事業についても、「春蕾生



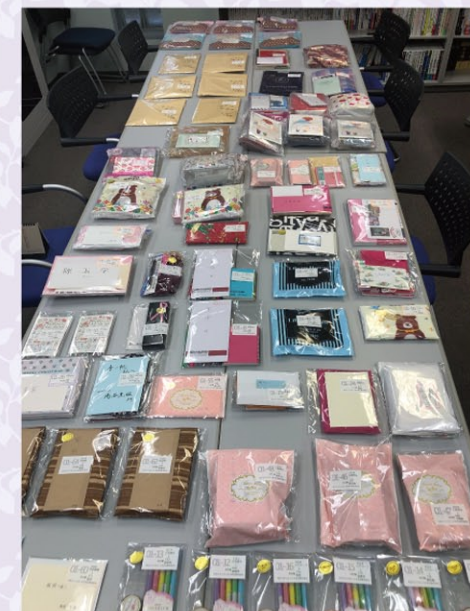
の視野を広める貴重な活動であり、内容のさらなる充実をはかりたい」とのことでした。また、春蕾クラスの学校運営について、「将来、貧困の有無にかかわらず、優秀な女子生徒をひろく集めたい」旨の考えをお持ちのようでした。陶紅校長は50代前半とお見受けしましたが、お話の随所から学校教育に対する大きな希望と展望をお持ちのように感じました。

今年の「25の小さな夢基金」生も、雲南省各地より選ばれ、はるばる昆明にやってきて入学しました。それぞれの家庭の事情で本来学校に行けなかった少女たちは、親や地域の期待を一身に受け、卒業を目指頑張っています。その心を支えるのは皆様からの手紙です。まだ里親の決まらない生徒が1/2ほどいます。ぜひご支援をお願いします。

会員・元雲南支部特命支部長 平田栄一



▲ オリエンテーションの行われた講堂入り口階段で試験勉強をする2年生。彼女たちは将来を夢見ていつも頑張っています。



▲ 春蕾生に届ける手紙が日本全国から事務局に届きました。昆明まで4,000km。日本と雲南を繋ぐ心の絆です。



▲ 2年生の教室を訪問。凄く数のテキストに驚きました。



屋休みが一番楽しい時間は万国共通



授業の合間の休憩も自習に余念がありません



希望に満ちた笑顔の新入生

心と心がつながる
教育支援
「25の小さな夢基金」
2019サポーター
募集中

2018年度新入生
王剣さん
(文山・ミャオ族)

今年も昆明女子中学春蕾クラスに93名の新入生が入学しました。
彼女たちの学資を3年間負担していただくサポーターを募集しています。
「高校卒業」という彼女たちの夢と一緒に叶えていただけませんか?

お問い合わせ・お申し込み ↓
東京本部事務局
TEL 03(5206)5260
(月～金、10～18時)
yunnan@jyfa.org

連載

25の小さな夢基金 卒業生の今vol.3 賀金菊さん

春の雨風のようにわたしを慈しみ
育ててくれた愛に感謝して

わたしは春蕾卒業生の賀金菊です。今日までの日々を思い返すと不思議な思いがします。わたしの父母は赤貧とも言えるほど貧しい農民で、学校には1、2年しか行けませんでした。一生懸命に働いていました。両親はわたしに勉強をさせ、世に役立つ人間になることを願いましたが、家計はそれを許しませんでした。でも、幸運にもわたしは昆明市女子中学春蕾クラスで勉強することができ、在学中に多くの心優しい方々から援助を受け、高校を無事に終え、希望する大学に進むことができました。

春蕾クラスで協会と働くことのできない深いご縁に巡り会いました。初めて恵蘭おばさまにお会いしたとき、「美しい人だな」と感じ、同時に、恵蘭おばさまの努力によって日本の企

業や慈善家の方々が雲南の貧困生徒を支援されていることを知り、尊敬の念を抱きました。そして、片岡おじさまがわたしの支援者に決まり、わたしの勉強と生活に温かい関心を寄せてくださいました。支援が始まると、一度もお会いしたことはないのに、わたしを思いやるおじさまの気持ちが伝わってきました。そして、全く予想もしなかったことに、協会の援助によってわたしたち春蕾生3人は先生と婦人連合会主任とともに、初めて日本を訪問する機会を与えられ、跳び上がらんばかりに興奮しました。なぜなら、昆明はもとより雲南省から外に出たことのないわたしがはるか彼方の日本へ行くなど、想像もつかないことだったからです。日本に到着して片岡おじさまに初めてお目にかかること

ができました。おじさまは元気凛々とした紳士で、神戸牛のすき焼きや刺身をご馳走してくださいました。言葉はわかりませんが、おじさまが「運命を変えるために勉強しなさい」とわたしたちを励まし、

2009年8月、東京たまがわロータリークラブのご招待で春蕾代表3名が初来日(左から賀金菊さん、初鹿野恵蘭理事長、賀さんのサポーターの片岡巖顧問、呉仙さん、雷会蘭さん)



現在の賀金菊さん 職場にて

知識が運命を変えることを教え、励ましたと思います。日々、仕事に追われながらも、とても充実しています。

もし生活が深刻な事態にあったとしても、わたしは感恩の心を忘れず、今日に至ることができたのは、協会のみなさまの私欲のないご援助、ご指導、温かい思いやりのお陰です。協会の支援は、まさに春の雨風のようにわたしをやさしく育み、わたしの人生を変えました。わたしはみなさまからいただいた愛の心を次の世代に伝え、かつてのわたしのような子どもたちに知識が運命を変えることを教えます。

最後に、わたしを支援してくださった片岡おじさま、多大な努力を重ねてくれた恵蘭おばさま、そして、日本雲南聯誼協会のみなさまに、心からお礼を申し上げます。みなさまの支援のおかげで、わたしはこんなに成長しました。今なお春蕾の妹たちを支援させていただいていることに感謝します。みなさまのご支援がたくさんの貧しい学生に自信を与え、生活を向上させ、運命を変えると信じています。

賀金菊(リス族) 2007年入学 第2期生

新顧問ご紹介

今年度8月10日の第2回理事会にて清水雄輔顧問のご推薦により米濱和英顧問の就任が承認されました。以前より個人としてまた法人として両面よりご支援いただいております。昨年7月には「25の小さな夢基金」サポーターとして雲南省を初訪問、春蕾卒業式で学生たちを励まされていました。



米濱和英 新顧問

■略歴

64年、(株)浜かつ(現(株)リンガーハット)設立。76年、代表取締役社長に就任。2005年、会長に就任。06年には、社団法人日本フードサービス協会会長に就く。08年、事業の立て直しのため、社長職に復帰。14年より現職。なお、09年には、外食産業の振興を評価され「藍綬褒章」を受章している。

25の小さな夢基金 夢基金サポーター寄稿

心と心を通う1対1の支援

初鹿野恵蘭理事長との偶然の出会いから20年以上、家族ぐるみ、会社ぐるみで応援してくださっている三宅裕之さんから「25の小さな夢基金」への思いを寄せていただきました。

空港での出会い

1996年夏、大学4年生だった私は中国の雲南空港にいました。1ヶ月間のツアーコンダクターのアルバイトからの帰路でした。雲南大学へ日本人の短期留学生を引率する仕事。前年の1年間の北京留学で得た中国語力を使い、自分自身も中国に行けるアルバイトでした。

その帰りの飛行機が3時間ほど遅れ、空港で近くにいた小さい日本人のお子さんたちと一緒に遊んでいました。そのお子さんたちが、初鹿野恵蘭理事長のお子さんたちでした。それがご縁で恵蘭理事長と知り合い、起業してから、会社の利益や拙著の印税の一部を寄付させてもらっています。また、会社の有志や家族

も、協会を通じて支援させていただいています。時折受け取る学生さんからのお手紙には、いつもこちらが勇気をいただきます。

支援はしているものの、実際に助けてもらっているのは私たちの方だとも思っています。2010年に、私が中国で会社を設立するときには、恵蘭理事長から蘇州政府の方を紹介してもらい、あらゆることをお手伝いいただきました。それ以来、その方とは家族ぐるみでお付き合いし、サポートしてもらっています。私たちが協会に支援している何倍もの恩恵をいただいています。

先日、蘇州出張からの帰国便がまた3時間ほど遅延しました。その時にふと、20年以上前



シナジープラス株式会社スタッフ懇親会

の雲南空港での遅れと、それがきっかけで出会った恵蘭理事長のことを考えていました。人生にはマイナスのなどひとつもない。すべてはご縁であり、こちらから貢献しようと思えば、いつの間にかそれ以上のものをいただいているものかも知れません。

これからの日本雲南聯誼協会のご活動もスタッフ一同心より応援しております。

シナジープラス株式会社、
諸楽吉(蘇州)教育諮詢有限公司
代表 三宅裕之

2018中国雲南省-日本経済協力交流懇談会

「2018中国雲南省-日本経済協力交流懇談会」が10月30日(火)、京王プラザホテル(東京都新宿区)で開かれ、定員を超える116社144名にご参加いただき、また程永華駐日本国特命全権大使も出席されご挨拶を頂きました。

基調講演では、雲南省人民政府、宗国英常務副省長が重点経済政策について講演し、同省が東南アジアに向けた経済拠点であることの利便性を

3中国雲南省-日本経済協力



解説しました。すでに雲南進出を検討している企業のほか、多くの日本企業が進出拠点としての魅力を再確認していました。

また、会場には雲南省を代表する農産物メーカー、雲南農墾集团有限公司も参加しコーヒーやプーアル茶そして松茸などの製品を展示し高品質で優れた製品の数々を参加企業にアピールし高い評価を受けていました。

近年海外企業の雲南への進出が加速し、北米や韓国の企業が積極的に投資を進めているそうです。会の後半には、あべ俊子外務副大臣も駆けつけていただき、日本と雲南の交流が更に活発になることを期していますとご挨拶をいただきました。

今後このような取り組みを通じて少数民族の教育支援について日本経済界へ理解を求めて参ります。



程永華駐日本国特命全権大使



左・あべ俊子外務副大臣



ご協力いただきましたボランティアの皆様



主催：雲南省人民政府
共催：雲南省投資促進局
認定NPO法人日本雲南聯誼協会
後援：一般財団法人日中経済協会
独立行政法人日本貿易振興機構
日本国際貿易促進協会
日中投資促進機構
株式会社みずほ銀行
日本産業投資技術促進株式会社
ボランティア協力(順不同、敬称略)
許峰、吳嵐、宋愛平、藤江林玲
釈妙音、角田果録、季瑞穎、濱田馨子
高屋由梨奈、裴悅微、陳欣悦
井内英人、殷穗琪、汪浩岩、唐燕
趙駿儒、齊騰費露

連載

こんにちはCSR

—協会を支えてくださる協力企業からのメッセージ—

第22回●HUNTKEY JAPAN 株式会社

会社概要 ■ 設立：2004年

本社所在地：〒101-0021 東京都千代田区外神田5-3-1 秋葉原OSビル5F

主な事業：スイッチング電源に関する、設計・開発・製造、精密金属加工、プラスチック成型、他

生産拠点：中国・深圳、河原、合肥

MAIL info@huntkey.co.jp HP http://www.huntkey.com

Hunt key (航嘉) 社は、1994年に電気製品のAC/DC変換装置(電源装置)を開発、製造、販売する会社として、中国深圳で設立されました。中国深圳といえばIT技術開発の最先端地区。同社はまだ30数年の若い企業ですが、中国国内でもPC電源シェア50%、業界内世界トップ5に入る成長企業で、深圳に本社第1工場、広東省河源と上海合肥に広大な製造工場を有し、米国、日本、香港に現地法人を有するグローバル企業です。中国を代表する家電メーカーのHUAWEI、LENOVO、Haierはもとより、

DellやHP(ヒューレットパッカード社)などの欧米企業、日本の大手家電メーカーなどからの委託を受けて、世界各国のニーズに対応したパソコンやスマホ、家電製品用などの電源装置の研究開発・設計・製造を行い、月産2千万個を製造しています。

羅社長は1962年の湖南省生まれ。中国が最も貧しい時代でした。湖南省は周囲を山に囲まれた盆地で、夏は蒸し暑く、冬は凍える寒さの土地柄からか、湖南人は辛い料理を好み、チャレンジ精神が強く、負けず嫌いな人が多いそうです。

文化大革命が終息した直後の78年に湖南大学に入学。文革で荒廃した大学が再開した第1期生で、合格率数パーセントの狭き門でした。大学に入ったもののどの道を行くか迷っていたところ、「電腦(コンピュータ)」ということばに未来を感じてソフトウェアの世界に飛び込みました。当時の中国はなにもかもが「ない」時代で、学生は必要な部品を手作りして「電腦」を組み上げ、それを動かすソフトウェアを考えたそうです。この時代のソフトウェアは穿孔テープ(紙テープに穴をあけた記憶媒体)に保存していました。「穿孔テープの穴の位置を目で追ってプログラムの間違いを見つけ出し、ハサミと糊で修正するのが毎日の作業だった」と羅社長は思い出笑い。1990年に大学講師を退職して日本に留学。ソフトウェアと日本語の勉強に没頭。アルバイトとしていくつかの日本企業でソフトウェアの開発に携わり、2004年にHUNTKEY JAPAN社の日本法人設立と同時に取締役に就任し、現在に至っています。

羅社長のご家族は奥様と一男一女の4人。

「子どもたちには、英語や数学が60点でもいい。自分が好きな科目は満点を取れ」と励ましているそうです。趣味はベストスコア77のゴルフ。すべてを忘れて頭脳を解放しストレスを発散する、なによりの休息だそうです。

羅社長が好きな言葉は「革命いまだならず」。孫文の有名な言葉ですが、「仕事にも人生にも“完成”はない。それを目指して努力することが大切」と仰っています。来日以來30年にわたってビジネスを開拓し、より優れた商品を開発してきた羅社長ならではの「エンジニア魂」を感じさせるお言葉でした。

羅誠社長



※CSR=Corporate Social Responsibility (企業の社会的責任)：利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもつこと

雲南少数民族女子高生の夢を叶える

第14回 雲南省少数民族貧困児童教育支援チャリティーゴルフコンペ



ゴルフで社会貢献
87名参加!

恒例のチャリティーゴルフコンペが10月13日(土)、協会法人会員の大月カントリークラブ(山梨県大月市)で開かれ、初参加10名を含む23組87名が参加しました。

雲南少数民族の衣装を着たボランティアとスタートホールで写真撮影してから、各組プレースタート! コンペ名物の18番ホール(157yd. Par3)では、ワンオンできなかった方に寄付をお願いしていますが、見事、ワンオンされた

方々からも快くご寄付いただきました。

皆さまからのご寄付で、今年も新たに3名の春蕾生支援が決定。チャリティーゴルフコンペでこれまで支援した春蕾生は24名になります。ご参加いただきました皆さんにお礼申し上げます。ありがとうございました!

ご協力・ご寄付・景品ご提供(順不同、敬称略)
株式会社技術評論社、株式会社大月カントリークラブ、株式会社村上製本所、JR総連、株式会社京王プラザホテル、日本産業投資技術促進株式会社、参加者の皆さん全員

ボランティア協力(順不同、敬称略)
吳嵐、劉萃、裴悦微、張昱、張俊儒、王子鸞

今年のチャリティーゴルフコンペが早くも決定!



2019年10月5日(土)です。

会場は今年も大月カントリークラブ ふるってご参加ください!

チャリティーゴルフコンペ参加に寄せて

イケダインターナショナル株式会社 代表取締役社長 平川正志



協会主催のチャリティーゴルフコンペに初めて参加させていただき、ありがとうございました。名門大月カントリークラブでのプレイも、大規模なゴルフコンペへの参加も初めてでしたが、協会の皆様の運営サポートが行き届いていたこともあり、とても楽しくプレイさせていただき、改めてお礼申し上げます。

天候にも恵まれ、時折、絶景の富士山も雲の間から姿を現すなど、素晴らしいコンディションでプレイできましたことを感謝申し上げます。

初鹿野理事長のご厚意により、大月カントリークラブ前社長で協会顧問の刈岡様、刈岡様の後輩の山下様、初鹿野理事長と、1組目で楽しくラウンドさせていただきました。刈岡様は前社長として年間140ラウンドされていたと、さすが、コースを知り尽くしておられ、同伴競技者には、大きなプラスになりました。我々の組はキャディーさんがいらなかったかもしれませんね(笑)。本当にありがとうございました。

刈岡様の熟練された正確なショット、山下様の豪快なドライバーショット、初鹿野理事長のプロ顔負けの華麗なスイングから放たれる男顔負けのドライバーショットと、皆様のパワーに圧倒されました。18番チャリティホールでは何とシャンク&O.B.が飛び出し、ショート7打という悲惨なスコアでした。ひょっとして、チャリティーの雲南女性的美貌に心引かれたのかもしれませんが(笑)。結果的に総合順位7位の好成績をいただき、皆様のおかげと感謝申し上げます。

本ゴルフコンペに参加することで、一人でも多くの少数民族生徒を支援できることを大変嬉しく思います。弊社関係者も4名参加しましたが、次回以降も継続参加させていただければ幸いです。

改めて主催者日本雲南聯誼協会の皆様並びに参加された皆様に感謝の気持ちとお礼申し上げます。



左から 初鹿野恵蘭理事長、平川正志さん、刈岡彰顧問、山下敏郎さん

協会ボランティア通信

連載 第14回 親子で協会ボランティア

雲南省昆明市出身で現在、慶應義塾大学に留学している陳欣悦さんは、8月の「七彩雲南 雲南省少数民族の舞踊と文化展」や10月の「2018中国雲南省-日本経済協力交流懇談会」で、通訳として活躍してくれました。

雲南出身者として協会活動に携わった感想を寄せてもらいました。



事務所で作業中の陳欣悦さん

私はボランティアとして「文化中国七彩雲南 中国雲南省少数民族の舞踊と文化展」と「2018年中国雲南省-日本経済協力交流懇談会」に参加しました。とても貴重な体験をさせていただき、感謝の気持ちを伝えたいと思います。

ボランティア活動を通じて、身につけた積極性や行動力を生かすことができましたし、雲南省昆明市出身の私にとっては特別な経験にもなりました。協会の皆さんや他のボランティアの皆さんと一緒に活動することで自分の成長を促し、普段の学校生活で出会えない人々に出会い、視野が広がりました。何よりも、見慣れた雲南少数民族の民族衣装を目の前で見て、懐かしい曲調が耳で響いたとき、故郷・雲南への愛をはっきり感じました。そして、雲南の舞踊を見て笑顔が浮かんだ人々や、プーアル茶をおいしそうに飲んでいる人々を見て感動すると同時に、故郷の文化を日本の人々に伝え、故郷に貢献することができたと思うと、心から喜びの気持ちが溢れてきました。また、ボランティア活

動のおかげで、私は故郷のことを異なる視点から考えることができました。自然環境に恵まれた雲南省がどのように国際的な事業を展開すればいいのかといった問題を考え、こうした課題を将来の進路に結びつけていきたいと思っています。

「旅人」になり、異郷で暮らす私にとって、日本で実感した故郷の発展と心の中の故郷が私の道しるべになりました。これから、私は協会との縁を大切に、故郷に貢献し続けたいと思っています。

陳欣悦



今年8月の「七彩雲南少数民族舞踊と文化展」にて陳欣悦さん(左)

大宮支部
イベント
報告さいたま市国際ふれあいフェア2018
大宮支部出展

さいたま観光国際協会主催の「国際ふれあいフェア」が10月7日(日)、JR浦和駅の駅前広場で開かれ、今年も大宮支部が出展しました。15の国と地域の団体が参加した今年は、残暑が厳しかったにもかかわらず昨年より1,000名多い8,000名（主催者発表）が来場しました。

大宮支部ブースでは、今年もボランティアの皆さんが早朝から民族衣装や写真パネルを準備。大粒の汗をかきながら、立ち寄っていただいた方に民族衣装の試着をすすめたり、協会活動をアピールしたりしていました。

ボランティア皆さん、暑い中、早朝の準備から撤収まで大変お疲れ様でした。

大宮支部支部長 寺内明子

ボランティア協力（順不同、敬称略）：鳥羽清弘、川口邦夫、大泉國雄、市川由美子、高橋福子、佐藤正典、横山晋、高橋、佐々木英介、金子沙樹、松本ユバ、佐伯義博理事、寺内明子



大宮支部ボランティアの皆さん



あげおワールドフェア2018

埼玉県上尾市国際交流協会が主催する「あげおワールドフェア」が10月14日、上尾市文化センターで開かれ、今年も大宮支部が出展しました。フェアには市内で活動するロシア、タイ、フィリピンなど24の国と地域の団体が参加。アジアやアフリカの民族舞踊のほか、親子韓国料理教室、ワールドマーケット、English caféなどの催しに、約3,500名（主催者発表）が来場、国際理解を深めました。

ボランティアが少ない大宮支部ブースにも、ひっきりなしに雲南に興味のある方が訪れました。ベテランボランティアの皆さんが手際よく質問に答えたり、少数民族のハンドクラフトを説明したりしていました。ご協力いただきありがとうございました。

大宮支部支部長 寺内明子



ボランティア協力（順不同、敬称略）：鳥羽清弘、川口邦夫、大泉國雄、市川由美子、小俣小輝、寺内恵美子、寺内明子

イベント
報告江戸川総合人生大学
第13期生卒業式、卒業祝賀会
初鹿野恵蘭理事長出席

東京都江戸川区のコミュニティカレッジ「江戸川総合人生大学」の卒業式が9月4日、同区内のタワーホール船堀で開かれ、2014年から講師を務める初鹿野恵蘭理事長も来賓として出席しました。北野大学長は「卒業は新しいスタートです。人から『ありがとう』と言われることを励みに、建学の精神である『実学』をこれからの社会活動で生かしてほしい」と、卒業生61名にはなむけの言葉を贈りました。卒業式の後の祝賀会では、卒業生が初鹿野理事長へ直接、感謝を伝えました。

中国駐日大使館2018錦秋交流の夕べ
初鹿野恵蘭理事長出席

中国大使館が主催する「2018年錦秋交流の夕べ」が10月11日に開かれ、中国共産党北京市委員会の杜飛進常務委員をはじめとする北京市代表团、小池百合子東京都知事、在日中国企業の代表など約300人が出席しました。初鹿野恵蘭理事長も招かれました。



初鹿野恵蘭理事長(左)と程永華大使(右)

程永華大使は「2018年は中日平和友好条約締結40周年、2019年は北京市と東京都の友好都市締結40周年です。北京と東京は両国の首都で、1979年の友好都市締結以来、経済貿易や文化、教育など各分野での交流が飛躍的に発展しました。両都市の交流が深まることで地方レベルでの交流がますます盛んになり、協力の可能性を広げる模範になるよう望みます」と挨拶しました。

東京都の小池百合子知事は、デジタル機器から貴金属を収集する東京オリンピックのコンセプト「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」に触れ、中国側に1億個のデジタル機器を要望し、会場が笑いに包まれました。

連載 25の少数民族の生活

徳昂族(デアン族)

デアン族は中国で最も長い歴史をもつ中国西南部の少数民族で古代の濮人がルーツです。雲南省徳宏州、保山市、臨滄市に住んでおり現在の人口は約2万人と言われています。民族衣装はスカーフを多用しカラフルなボンボンが付いているのが特徴。他の民族に比べシンプルないでたちです。方言と服飾の違いによって「紅徳昂」、「花徳昂」、「黒徳昂」などに分類されます。お茶栽培の歴史が長く、「お茶を耕作する古い農民」と言われており、各家庭の庭先でお茶を栽培し自家製のお茶作りが盛んです。祭礼にや正式な招待の際にも用いられています。



えんどう豆から作られた麺

中華人民共和国成立69周年・
中日平和友好条約締結40周年レセプション
初鹿野恵蘭理事長出席

中華人民共和国成立69周年と中日平和友好条約締結40周年を祝うレセプションが9月27日、ホテルニューオータニ(東京都千代田区)で開催されました。程永華駐日大使をはじめ、林芳正文部科学大臣や福田康夫元首相など日華僑・華人や各界の代表ら約2,000名が出席しました。初鹿野理事長も招待客として出席しました。



程永華大使は、「今年5月、中日関係が久しぶりに春らしさを迎えました。このチャンスを逃さず、中日間の4つの政治文書と4つの原則的共通認識を固く守りつつ、中日関係が安定の中で確実に前進することを希望します」と挨拶しました。日本側からは日中友好議員連盟会長の林文科大臣と中根一幸外務副大臣が挨拶に立ち、福田元首相が乾杯の音頭を取りました。

平成30年度 第3回理事会及び役員・顧問会 開催報告

平成30年度第3回理事会及び役員・顧問会が下記の通り行われました。

日 時：平成30年11月9日(金)

場 所：株式会社技術評論社5階 会議室

【議案】役員報酬記載、2019年度プロジェクト・イベント、年賀葉書、協会コンプライアンス、ファンレイズ計画の実施全て原案通り承認されました。



日中学院文化祭 学生ボランティア出展

日中学院(東京都文京区)の文化祭が10月27日(土)に開かれ、同校で中国語を勉強する学生ボランティア3名が、協会活動を紹介する写真パネルや民族衣装などを展示しました。大宮支部のボランティア川口邦夫さんが持ち込んだ紹介パネルも展示。学生さんばかりでなく、雲南に旅行したことがあるという地元の方も訪れ、「25の小さな夢基金」などの協会プロジェクトを紹介できました。チャリティーバザーでは善意の寄付もいただきました。

ボランティア協力（順不同、敬称略）：川口邦夫、小野寺梨紗、渡部優美、呉鎮

渡部優美(学生ボランティア)

イベント
情報

■平成30年度
第4回役員顧問会
期間：2019年2月15日(金)
場所：技術評論社本社ビル

■「25の小さな夢基金」
第6回 日雲高校生
国際交流会

日時：2019年3月8日(金)
場所：上海日本人学校高等部

■「25の小さな夢基金」
第9回「夢は叶う」講演会

日時：2019年4月20日(土) ※予定
場所：昆明市女子中学

■第19回 定時総会

日時：6月上旬(予定)
場所：日本雲南聯誼協会東京本部(予定)

■「25の小さな夢基金」
卒業式参列「ふれあいの旅」

日時：2019年6月下旬から1週間程度
訪問地：昆明市女子中学、春蕾生ふるさと、
協会支援小学校等 ※予定

お知らせ

協会の最新情報発信!

「いいね!」「シェア」をお願いします!

●Facebook 協会公式アカウント
<https://www.facebook.com/NPO.JYFA>

●「雲南省 少数民族の女子学生に夢を! 25の小さな夢基金」公式アカウント
<https://www.facebook.com/25foundation>

●ブログ「雲南の郵便屋さん」
<http://blog.canpan.info/yunnan/>



●協会公式HP
<http://www.jyfa.org/>



編集後記

2018年来日した外国人観光客は3100万人を超え、そのうち中国人は約840万人で1位、2位は約750万人の韓国でした。いずれもリピーターの割合が増え、定番の観光地ツアーでは飽き足らない、「ディープ」な日本を探究する人が増加しているそうです。先日、地図を手にして右往左往している中国人とおぼしきご夫婦に遭遇。拙い中国語で問いかけたところ、なんと探し求める場所は新宿駅西口の「ションベン横町」ですと。一瞬耳を疑いましたが、いまやそんな時代なのであります。なんとも通なご夫婦でした。

(編集長代理・平田栄一)